

授業科目名	動物薬理学Ⅱ	科目コード	261048		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	3年
担当教員	堀脇浩二（非常勤講師）				
	実務経験教員（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） 実務経験内容 獣医師免許 ひかり動物病院院長 現場での症例を事例として授業に取り入れている				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	30 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト 1	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第3巻			
	著 者	編：緑書房編集部			
	出版社	株式会社緑書房			
使 用 テキスト 2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（ ）				
<p><授業の目的・目標> 動物看護師の業務には調剤の補助と投薬があるが、どちらも薬物に関する知識が不可欠である。この科目では薬物の基本的な知識を習得し、治療に使用する薬が体に有害な作用を表す毒物にならないようにすることを目標とする。</p>					
<p><授業の概要・授業方針> 薬についての総論では、薬理作用、薬用量、取り扱う際の注意などを学習し、各論では動物病院で使用される主な薬剤の薬理作用、副作用、取り扱い上の注意点について、器官ごとに進めていく。</p>					
<p><成績基準・評価基準> 前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。 通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とする。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					
<p><授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他> 動物形態機能学Ⅰ、Ⅱ、動物臨床看護学各論Ⅰ、Ⅱ</p>					

授業科目名	動物薬理学Ⅱ	
回	授 業 内 容	備 考
1	科目概要、学習目標、前年度の復習 (p 89-156)	
2・3	第8章 オータコイド,代謝・内分泌系の薬物 1 オータコイド (p 157)	
4・5	第8章 オータコイド,代謝・内分泌系の薬物 2 糖尿病治療薬 (p 159)	
6・7	第8章 オータコイド,代謝・内分泌系の薬物 3 甲状腺ホルモン製剤 (p 161)	
8・9	第8章 オータコイド,代謝・内分泌系の薬物 4 性ステロイド (p 162)	
10・11	第8章 オータコイド,代謝・内分泌系の薬物 5 副腎皮質ホルモン剤 (p 163)	
12	第9章 血液,免疫系に作用する薬物 1 抗貧血薬 (p 168)	
13	第9章 血液,免疫系に作用する薬物 2 血液凝固に対する薬 (p 169)	
14	第9章 血液,免疫系に作用する薬物 3 血液凝固促進薬 (止血薬) (p 170)	
15	前期復習	
16	第9章 血液,免疫系に作用する薬物 4 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) (p 170)	
17	第9章 血液,免疫系に作用する薬物 5 免疫抑制薬 (p 173)	
18	第9章 血液,免疫系に作用する薬物 6 分子標的薬 (p 174)	
19・20・21	第10章 化学療法剤 1 抗菌薬 (p 175)	
22	第10章 化学療法剤 2 抗真菌薬 (p 179)	
23	第10章 化学療法剤 3 駆虫薬 (p 180)	
24	第10章 化学療法剤 4 抗がん剤 (p 182)	
25・26	予防接種	
27・28・29	投薬量計算	
30	総復習	